

〈第4章〉 成果と課題

【成果】

[研究内容に関わって]

視点1：「基礎・基本を明確に位置付け、効果的な指導を進めるための指導計画の工夫」



○基礎・基本をふまえ、重点となる評価規準を吟味し、意図的・計画的に指導計画に盛り込んだ。このような指導計画と評価計画の一体化を図ることにより、具体的な姿で学習活動における子どもたちを見取ることができた。そして、その場に応じた的確な支援やその後の指導改善へと結びつけられることが明らかとなった。

視点2：「基礎・基本を重視し、意欲的な学びを促す問題解決場面の設定や指導方法等の工夫」



○単元の学習内容を吟味し、子どもたちの意欲を引き出す教材開発の工夫と既習事項や今後の学習内容へのつながりを意識した問題解決の場面設定を行った。また、考えを広めたり深めたりするために、子どもたち同士がかかわり合う場面を意図的に設定した。このような教材開発の工夫や学習形態、指導法の工夫を図ることにより、子どもたちの学習意欲が喚起され、またさまざまな操作活動や交流活動を通して、新しい知識等を自ら獲得していく姿が見られた。

視点3：一人一人の学びを共感的にとらえ、
観点や場面・方法を明らかにした指導改善に生かす評価の工夫



○子どもたち一人一人の良さや可能性を大切にすると共感的な姿勢を持ちながら、基礎・基本の定着を目指すため、場面や観点、方法を明らかにした評価活動を行った。このような取り組みを進めることで、単に「できた」「できない」の判断ではなく、その子の良さを尊重しながら、評価規準に照らし合わせ、的確な見取りと支援を行うことができた。また、その子らしさを発揮させる場面を教師が見通しを持ち、授業の中で生かすことができた。

[研究の推進にかかわって]

○今年度は5つの検証授業を行った。実践をもとにしながら、研究内容についても改めて振り返ることができ、より具現化することにつながった。

【課題】

〔研究内容に関わって〕

これまで3年間の研究から、指導改善のため以下の2点について、具体的方策としてより明らかにする必要があると考える。

●観点や場面、方法を明らかにした評価の工夫について研究を進めてきた。より効果的な授業改善へとつなげていくために、子どもたちを多面的に、そして、よりの確に見取るための評価方法について、さらに研究を進めていく必要がある。また、評価結果を次の指導（単元内、単元間、学年間・・・）へと生かしていく道筋を明らかにすることも必要である。

●より意欲的な学びへとつなげていくために、学習の過程や結果での子どもの声（自己評価等）を生かし、個に応じた指導へと生かす手だてについて研究を進めていくことが必要である。

〔研究の推進にかかわって〕

●検証授業を行うにあたって、教科の特性なども生かした研究の推進が必要である。また、学習指導委員会の体制及び検証授業年間計画の工夫を図る必要がある。